

令和4年度第1回 東京都健康安全研究センター倫理審査委員会 議事要旨

- 1 日 時 令和4年10月14日(金)から24日(月)まで
- 2 場 所 書面開催
- 3 出席者 廣瀬委員長、貞升委員、笹本委員、猪又委員、中西委員、樋口委員、小島委員
- 4 議 事

- (1) 倫理審査委員会設置要綱等の改正について(報告) →承認
(2) 迅速審査の実施状況について(報告) →承認

(令和3年度第1回倫理審査委員会(R3.6.1)書面開催後の案件)

	研究科題名	研究期間	研究区分	申請者	審査日	判定結果
(令和3年度)						
1	地方感染症情報センターからの感染症発生動向調査の評価と改善 (研究の概要) 感染症発生動向調査システム(NESID)からダウンロードした定点報疾患データの地方感染症情報センターにおける利用方法や住民や関係機関への効果的な見せ方等を検討し、感染症情報センター用データ解析ツールの改善点を指摘する。 (条件付承認) 以下の項目を修正することを条件とする。 ・倫理審査資料 7「研究対象者等からの相談等への対応方法」について記入を行うこと。	R3年度	受託研究	健康危機管理情報課 宗村 佳子	R3.6.25	条件付承認
2	日本におけるHIV感染症の発生動向に関する研究 (研究の概要) 新宿東口検査相談室や保健所等の都内公的HIV検査機関で採取された試料(血清)を用いて、HIV検査を行い都内のHIV感染率を調査する。また、抗HIV抗体の結合力を指標とした方法により、HIV陽性検体の中に含まれる感染初期群の割合を調べる。得られたデータをもとに、HIV感染者数の推定を行う。	R2～4年度	受託研究	ウイルス研究科 長島 真美	R3.6.26	非該当
3	地方感染症情報センターからの感染症発生動向調査の評価と改善(修正に伴う再審査) (研究の概要) 感染症発生動向調査システム(NESID)からダウンロードした定点報疾患データの地方感染症情報センターにおける利用方法や住民や関係機関への効果的な見せ方等を検討し、感染症情報センター用データ解析ツールの改善点を指摘する。	R3年度	受託研究	健康危機管理情報課 宗村 佳子	R3.8.25	承認
4	東京都における新型コロナウイルスの変異株解析と変異株の迅速診断法の開発 (研究の概要) 保健所より搬入された臨床検体から検出されたSARS-CoV-2やウイルス分離株を用いて、リアルタイムPCR法やNGSによる解析を行い、東京都内における変異株の分布状況を明らかにする。 新たに出現した変異株に対応できるリアルタイムPCR法を用いた迅速診断法を開発し、都内の分布状況の把握に活用する。	R2～4年度	応募研究	ウイルス研究科 長島 真美	R3.8.25	承認
5	感染症発生動向調査等におけるウイルスの分子疫学解析法の検討(修正に伴う再審査) (研究の概要) 感染症発生動向調査では、病原体情報等を収集・分析し、流行している病原体の検出状況及び性状を確認することが求められている。当センターでは、同事業において、ウイルス検索(アデノウイルス等)を実施しているが、臨床的に検査・診断が困難な患者検体(流行性角結膜炎や不明発疹症等)の搬入も多く、検査対象のウイルスが検出されない事例が存在する。そのため、実際の流行状況を把握する目的で、より網羅的かつ効率的な検査体制の整備が必要である。本研究では、既報のウイルス検査法と登録されている塩基配列情報に基づき、検査法及び解析法の検証を行うために、PCR法等を用いた検査体制の検討を行う。また、従来検査対象でなかったウイルスを含め、臨床検体由来のウイルス遺伝子を対象としたウイルス検査法の検討、次世代シーケンス解析法を用いたウイルス検索を実施する。さらに全長配列等の遺伝子の塩基配列を蓄積し、ウイルスの病原性解析や系統解析等の分子疫学的解析を試みる。	R3～5年度	課題研究	ウイルス研究科 熊谷 遼太	R3.10.11	承認

	研究科題名	研究期間	研究区分	申請者	審査日	判定結果
6	新型コロナウイルスのゲノム解析と検査法の開発に関する共同研究	R3年度	共同研究	ウイルス研究科 長島 真美	R3.12.17	承認
	(研究の概要) 新型コロナウイルスは変異速度が速く、様々な変異株が定期的に出現する。本研究は、臨床分野で採取した検体(残液)について、新たな変異ウイルスのゲノム解析やウイルス分離に利用し、当センターで開発した検査法の評価を行う。					
7	首都圏で流行する新型コロナウイルス感染症を含む感染症の病原体の調査研究と感染症制御戦略に資する研究	R3～5年度	共同研究	ウイルス研究科 長島 真美	R3.12.24	承認
	(研究の概要) 新型コロナウイルスは変異速度が速く、スパイク蛋白に変異を生じた様々な変異株が定期的に出現する。本研究は、都内の公的HIV検査機関で採取された血清や健康安全研究センター内のワクチン接種者の血清を用い、都内で分離された新型コロナウイルス変異株の違いによる抗体価の違いを調査し、都内の集団免疫の評価に利用する。					
8	新型コロナウイルス変異株検査法の開発に関する共同研究	R3～4年度	共同研究	ウイルス研究科 長島 真美	R4.3.22	承認
	(研究の概要) 新型コロナウイルスは変異速度が速く、様々な変異株が定期的に出現する。本研究は、臨床分野で採取した検体(残液)について、新たな変異ウイルスのゲノム解析やウイルス分離に利用し、熊本大学で開発した検査法の評価に使用する。					
9	新型コロナウイルス変異株のゲノム解析及び発生状況の調査	R3～4年度	共同研究	所長 吉村 和久	R4.3.30	承認
	(研究の概要) 新型コロナウイルスは変異速度が速く、様々な変異株が定期的に出現する。本研究は、臨床分野で採取した検体(残液)について、新たな変異ウイルスのゲノム解析やウイルス分離に利用し、当センターで開発した検査法の評価に使用する。					
(令和4年度)						
10	国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究	R4～6年度	受託研究	微生物部 貞升 健志	R4.8.17	承認
	(研究の概要) 日本におけるHIV感染者数の多くは東京都において報告されている。感染者数を減少へと導くためには、地域における正確なHIVの詳細な遺伝子解析が必要である。東京都においてもHIV感染者の血清からウイルス遺伝子を解析し、全国規模での感染状況との関連を把握しておく必要がある。					
11	食中毒原因ウイルス等の汎用性を備えた検査法と制御を目的とした失活法の開発のための研究	R4～6年度	受託研究	所長 吉村 和久	R4.8.17	承認
	(研究の概要) HuNoVを検出した臨床検体(糞便等)を用い、HuNoVの分離培養を試みる。培養したHuNoVを用いて、種々の不活性化実験に使用する。					
12	地方衛生研究所と保健所の役割機能の整理及び感染症健康危機対応の強化に向けた研究	R4年度	応募研究	微生物部 貞升 健志	R4.8.17	承認
	(研究の概要) 日本における健康危機対応は、地方衛生研究所と保健所の連携で成り立っている。本研究では、更なる連携強化のために、人材育成や研修等に係るプログラム等の開発等を行う。					